



旭日双光賞を受賞して

—ありがとうニッポン！—

私の世代のロシア人たちにとって、遠い日本という国は、なにかとてもロマンティックな他のどんな国とも比較ができない特別な存在でした。歴史や文化、あるいは高度成長期における技術、産業分野でのブレイクはどれもこれも想像を超えたものばかりでした。私がレニングラード大学（現サンクトペテルブルク国立大学）で日本語を習ったことは、たいへんラッキーなことだったと思っています。

ピョートル大帝の命によって漂流民である伝兵衛が教鞭をとることになり、1705年に世界ではじめて（日本以外の地で）日本語学校が開設されました。実は私がまだ学生の頃に初めて訪れた日本の街が大阪でした。1970年に大阪で開催された世界万国博覧会のソ連パビリオンのアテンドが訪問の目的でした。当時のソ連は“鉄のカーテン”の向こう側だった時代です。大阪は私にとって世界に目が開かれる窓になりました。万博におけるソ連パビリオンには沢山の日本専門家が派遣されましたが、世界の他の国々からも大勢きており、ここで世界との交流が始まったのです。勿論私にとって一番大事なことは日本人々との最初の出会いの場だったことです。その後北は札幌、南は鹿児島まで、訪日の回を重ねましたが、私の心の中で日本国民に対する敬愛の念は益々強くなっていきました。

そしていま私の日本との付き合いは50年になろうとしています。それは私の運命であり、愛であり、職業です。いまその自分が勲章をいただけるなど予期せぬ大きな喜びであります。この場を借りて改めて『ありがとう、ニッポン』と申し上げます。

アレクサンドル・ゲルツェフ（イツモ社代表・露日友好協会理事）

外国人叙勲は日本との友好に顕著な功勞のあった方に、春秋の年2回授与され、ロシアでも多くの方々が受賞されている。ニーナさんは2009年秋の第3回日本文化交流団、2012年10月ロシア親善交流訪問でお世話になり、その年の11月に大使館で開催された第2回チャリティーコンサート「ロシアからの声」の契機となった、協会にとってはかけがえのない大切な友人だ。心から拍手をおくりたい。ペテルブルク日本国総領事館

—ロシアより日本への愛をこめて—

日本の友人の皆様！最初に在サンクトペテルブルク日本総領事館並びに日本国政府に対して日露間の友情の発展への私のささやかな貢献をかくも高く評価して頂いたことに心よりお礼を申し上げます。私は15年以上に亘って、日本語と日本文化の専門家の方々をつなぐサンクトペテルブルク露日友好協会の事務局長をつとめてきました。私たちの協会の主要な目的はサンクトペテルブルクの市民が日本の文化を学び理解することにあります。私たちはこの素晴らしい文化に少しでも多くの人々が触れることで、ロシアの社会に大きなプラスになると考えています。

私たちの協会は毎年当地で開催される『日本の春』、『日本の秋』というフェスティバルの場で、エルミターージュ美術館、ロシア博物館、サンクトペテルブルク歴史博物館といった世界有数の施設の協力を得ながら日露の芸術家たちの創作的なコラボの場を提供し、自らも積極的な活動をしてきました。

日本の最高の勲章である旭日双光章が私たちのような民間団体の職員、『民間外交官』に授与された事実を私は誇らしく思い心に刻みました。私にとって大きな名誉であります。同時にすべての仲間たちとこの栄誉を分かち合いたいと思います。

私はサンクトペテルブルクの人たちの日本文化への関心、また日本人たちの私たちの街に対する関心が相互作用して、更に新しいプロジェクトや協力の形が作られていき、ひいてはロシアと日本の友情や相互理解の発展につながることを心より願ってやみません。日本の皆様へ心からの尊敬の気持ちをこめて。

ニーナ・ツヴェトコヴァ（露日友好協会事務局長）

で行われた式典の挨拶では、協会について触れられたとのことである。

また、2008年春受賞のニーナ・フォーミナ氏、2011年秋のゾーヤ・ロイトマン氏はハバロフスク対外友好協会で活躍中で、日本文化交流団では度々お世話になっている。このように協会と関わりのある方々がその活動を認められ、名誉ある叙勲のリストに載ることは喜ばしい限りだ。

